

きんもくせい

編集目標 学びあい 人がつながり 一人ひとりが輝く 富士見の教育

令和7年 学校教育だより

September **9** 第366号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711(内線623)



東中学校創立50周年記念航空写真

©国際総合企画株式会社

月見

針ヶ谷小学校 三年

種田 葉月

おだんご おだんご

もちもち パクパク

空を見上げて

大きいおだんご

中には ピョンピョン

もちつきうさぎ?

みんなを上から見ているよ。

みんなを上から見守るよ。

はじめに

現在、国内外では、少子高齢社会、生成AIの進展、世界情勢の混乱など社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでに高く高まっている。これから生きていく子どもたちに必要となる力とは、何だろうか。それは、自ら課題を見出し、その解決に向けて生き方の自己調整を繰り返しながら、自分自身をコントロールする能力だと考えている。そしてこれらの能力を身に付けた者を「自立した学習者」とした。

では、このような能力・学習者を育てるために学校教育にできることはなんだろうか。授業は教師が学びを授けるだけの場であっていいのだろうか。よりよい授業のあり方とは何だろうか。今回は自問自答しながら昨年度から実践している国語科の授業について具体的な取組を紹介する。

「国語科授業の工夫」 学習を進めるために～

富士見市立針ヶ谷小学校 教諭 塩田 恵也

子どもたちに学びを委ねる

私は自立した学習者を育てるために、六つの手立てをとっている。

今回は二年生の物語教材である『みきのたからもの』での学習を例に挙げながら、児童が考えた学習活動を通して、登場人物の行動を具体的に想像するための手立てを紹介する。

①学習のゴールの明確化

単元の計画を立てる上でまずは、この学習で何ができるようになったらよいのか、身に付ける力はどうなのものかというゴールを明確にし、子どもたちと共有する。本単元では、「人物のようすを思いうかべることができる」というゴールを明確にすることによって、このあとの

みずほ台小学校 6年 優
圓岡



6年間の運動会を通して

僕は、6年間の運動会を通して色々なことを学びました。今まで上級生の姿を見て、自分たちもいつかこんなカッコいい姿を下級生に見せたいと思っていました。だから、全員で心を1つにし、練習に取り組みました。今年は、児童代表の言葉を務めました。本番は緊迫した会場の中、自分らしい声かけでこれから始まる運動会を盛り上げました。会場全体からの拍手喝采はとても気持ちよかったです。6年生最後の運動会、緊張とプレッシャーもあったけれど、演技や競技、応援合戦を通して仲間と団結しながら絆を深め、成功できたことをすごくうれしく思いました。今までの6年間の経験を生かして、中学校の体育祭も頑張りたいです。



③教師の関わり

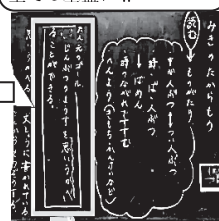
子どもたちに学びを委ねているだけで、必要な資質・能力が身に付き、自立した学習者に育つとは考えていない。そのためには教師の力が必要となる瞬間がある。子どもたちの学びがゴールに向かっていないと感じれば指導者として関わり、学びが滞れば選択肢をあたえたり、共感したりすることで、進捗を支える支援者として関わる。そして子どもたち同士の学びをつなげ、確かなものにするファシリテーターとして常に子どもたちと関わっていく。子どもたちに学びを委ねても、常に教師は子どもたちを様々な立場で支えていく。

②学習方法の選択

子どもたちは、一単元、一授



学習の方法の選択・決定
学びの振り返り
学びの調整
全ての基盤に!!

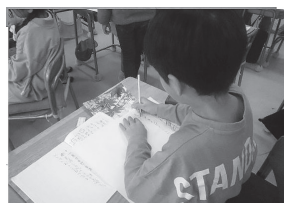


学習方法や表現方法を選択・決定すること、自分の学習を振り返ること、学び方を調整すること、すべての指針・基盤とした。

魅力ある授業

＝針ヶ谷小学校 国語科＝

「自立した学習者を育 ～自分のもつ力を発揮し、



④ 表現の方法を増やす

物語から読み取ったこと、考えたこと、感じたことを子どもたちが様々な方法で表現できるようにする。紙芝居で面白い場面を表現したり、面白さをランキング形式で発表したり、劇にしたり、ひたすら画用紙に書いたり。子どもたちは好きな方法で表現していく。自分の考えや思いを様々な方法で表現することを多く経験することで、自分に合った表現の手段を見付け、のびのびと自己の考えを表現できるようになると考えている。



⑤ 振り返りの視点の明確化

振り返りは、毎時間必ず「どのような方法で勉強したのか」「何ができた、わかったのか」「できなかった、わからなかったのか」「次にやること」の四つの視点で書いている。自身が選択した学習方法とその成果について教師や友だちからフィードバックをもらうことで、自身の強みや苦手なことを理解したり、学習方法を自ら調整したりできるようになっていった。

⑥ まとめと振り返りの蓄積

子どもたちの気付きと振り返りを学習者用端末で蓄積・共有すると、子どもたちの学習の様子に変化が見られた。『みきのたからもの』の学習に入る前にこれまでの教科書を家から持ってきて物語の学習を振り返っていたり、家から今までのノートを持ってきて、これまでの学習を振り返りながら活動を進めたりと、自分の学びを認識し、身に付けた能力をコントロールしながら学習することができるようになった。

おわりに

授業は子どもたちのものだと考え、学びを委ねていくと、子どもたちは、のびのびと楽しそうに学習するようになった。その中でも、学習のゴールに向かって学び、確実に力を身に付けることができていた。また、自分で学び方を選び進めていくことで、「次の時間は〇〇をやらなきゃ。」というまじいかなかったから学び方を変えてみよう。」などの姿が見られた。まさに「自立した学習者」としての姿だった。これからは子どもたちとともに、「未来のための学び」「自分の力を存分に発揮できる学び」を創っていききたい。

指導・講師

富士見市立針ヶ谷小学校

河村 雅博

最近接領域

ふじみ野小学校 教諭 石川 尚

特別支援教育

「最近接領域」という表現を二五年前、大学の先生の講義で学びました。その時は、子どもがちょっと頑張れば達成できる領域（課題）のことだと考えていました。今年度、久しぶりに特別支援学級の担任になり、子どもが喜んで取り組む題材（教材）を見つけることの難しさを改めて感じました。自立活動の授業で、吹き矢やフライングディスク・ステイツ

キーを取り上げましたが、興味をもつ子もいれば、眺めただけで触ろうとしない子もいました。この時、その題材（教材）が、その子の発達の段階に合っていない場合が多いと感じました。つまり、手を変え、品を変えても、子どもが教師の思い描く反応を示さない場合は、『その子の最近接領域ではなかった』と考えるようにしています。

入学式や全校集会・運動会などで、特別支援学級の子どもたちは、なかなかまとまった行動がとれないことがあります。そんな時、その行事で行うことが、その子にとってどういう意味があるのだろうかと考えていきたいと思っています。

改めて調べてみると、「最近接領域」とは、ロシアの心理学者が提唱した理論で『ひとりでできる水準とできない水準の間にあり、大人や仲間の支援を受けてできる領域のこと』とありました。適切な支援が、子どもたちの成長にとって重要であると感じました。

「先生、今日の国語はなにやるの？」
昔、自分が子どもたちからよく質問された言葉です。その場の反応を活かして学習を進めたいとの思いから、いわゆる「ネタバレ」を避ける傾向がありました。塩田教諭の実践は、それとはまったく異なります。

（子どもたちの振り返りより）
「友だちと話して進められた。次回は一人でがんばります。」
グループで話し合ったけど、うまくいかなかった。今度は先生に聞きながらやりたい。」
単元計画を理解し、ゴールを目指して自分で学びをデザインする子の姿が見られます。「次回はこうしたい！」に溢れる児童からは、もう冒頭の質問は生まれないのです。主体的・対話的で深い学びの授業改革をまさに体現した、すばらしい実践でした。

「人生は選択の連続だ」

つるせ台小学校 保護者 城 満太郎

二十代の頃、様々な人生の岐路に立つたびに心の中に浮かんできた言葉です。子どもたちの姿を見ていて、ふと選択を繰り返すのは大人だけでなく、子どもと同じなのではないかと気付きました。

小学校五年生の娘は、毎日たくさんの小さな決断をしています。朝ごはんのスープは何にしようか、休み時間にどの本を読もうか、宿題は夜のうちにやるのか、朝早起きしてやるのか。そんな些細なことに、娘なりの理由や思いがあることに気付かされます。そしてその積み重ねが、少しずつ彼女自身の考え方や感じ方、そして生き方を形づくっていくのです。

もちろんすべてを子ども任せにするわけにはいきません。間違えそうになったときや、危険な方向へ進みそうなきにはそっと手を差し伸べる必要があります。でも、子ども自身の意思で決める経験を奪わないように気を付けています。私たち大人ができるのは「正解」を押し付けるこ



台中体育祭 六色の輝き

富士見台中学校

「行事に対して、この学校以上に熱くなることはない。」

そう言い切れるほど、全員が全力で取り組むのが富士見台中学校です。

その中でも一際盛り上がるのが体育祭。六色に分かれた総勢六三七名が、優勝をめざして駆け回り、応援し、汗を流します。本番だけではありません。練習の段階から体育祭は始まっているかのように、声を上げ、叫び、力の限り取り組むことで記録を

伸ばしていきます。

しかし、六色の団に分かれているとは言え、台中生としての絆は健在です。桃団がほかの団に比べて人数で劣るため、応援合戦において有志の二年生数十名が駆け付け、盛り上げてくれました。すべての色が合わさっての応援には胸を打たれました。生徒だけでなく、観衆までも感動する、最高の体育祭になりました。

二学期になれば合唱コンクールが待っています。体育祭を通して



育んだ絆の力で、どこまで素敵な音色を奏でてくれるのか、楽しみで仕方ありません。

「私の活力」

勝瀬小学校 保護者 柳田香緒里

私が朝の見守りを始めてから六年、スクールガードリーダーとしては三年目となります。見守りを始めたきっかけは、長男が一年生の時に学校に行けなくなってしまう時期があったことです。登校のときに学校まで付き添っていたのですが、すでに他の子どもたちが登校し終わった後でも見守りボランティアの方々は残り続け、登校する長男に温かい言葉をかけ続けてく

れ、一緒に学校まで付き添ってくれたこともありました。登校班で行けるようになるまで数週間かかりましたが、ずっと温かく見守ってくださった見守りボランティアの方々には感謝しありません。私もそんな見守りボランティアの一員になれたらと思ったのがきっかけです。

見守りを始めてから少しずつ子どもたちから認知され、今では下校中に会うとその日の出来

事を教えてくれる子や困ったことや嫌だったことを相談してくれる子もいます。見守りボランティアの方々への感謝と子どもたちの安全の為に始めた見守りボランティアが今では私の楽しみの一つとなつていきます。正直、毎朝忙しいですが、それでも続けてこられたのは、一緒に見守りをしてくれているボランティアの方々の存在はもちろんですが、いろいろな子どもたちから顔を覚えてもらえ、交流できるからです。私にとってそれは、見守り

ボランティアを続けていける活力のようなものです。今年度で小学校から私の次男は巣立ちますが、朝の見守りを続けていこうと思つていきます。



鶴小フエスタ

鶴瀬小学校

鶴瀬小学校は、「鶴瀬小でよかった!」を目指す学校像とし、あたたかな人間関係の醸成や協働して創意工夫を発揮する活動等に取り組んでいます。その中で、九月の学校公開日には、縦割り遊びのグループごとに遊びのお店を開いて楽しむ「鶴小フエスタ」を行っています。

縦割り遊びのグループでの活動のため、四月から縦割り遊びや全校遠足で、少しずつ人間関係を醸成しています。

鶴小フエスタの準備では、子ど

もたちが創意工夫を発揮し、遊びや役割を決めたり、材料を集めたり、お店に必要な物を作ったりして、本番を迎えます。スムーズに決まらないことがあれば、六年生が、下級生の意見も聴きながらリーダーシップを発揮し、準備を進めています。

鶴小フエスタ当日は、保護者もお客さんとして参加し、とても生き生きと活動する子どもたちの様子が見られます。

今後、鶴小フエスタだけではなく、様々な教育活動をおし、「鶴



瀬小でよかった!」を実現できるように取り組んでいきたいと思

教育課題特集

夢ときぼうを

「いただきます」「ごちそうさま」はなぜ言うの?

学校給食センター 主任 川島 宏基

学校給食センターでは、毎日市内小中学校の給食、約九千食をつくつていきます。給食は、栄養の勉強を修めた先生が、子どもたちの健全な発達を見据えて、献立を作っています。献立の中には、焼きそばや揚げパン等、人気の献立がある一方、食べ残しの量が多い献立があります。これは、子どもたちからの一つのメッセージであると思います。「なぜ」食べなかったのでしょうか。

好き嫌いを無くそうと昔から言われていますが、「なぜ」ということが抜け落ちがちです。ご家庭で、「なぜ好き嫌いをしてはいけないか」、説明を求められた際に回答に困ってしまうことがあります。

答えを返す前に、お子さんと一緒に「なぜ」を考えてみましょう。小学一年生と四年生と、中学三年生では出てくる回答が異なると思いますが、そのとき彼らが考えるベースとなる知識や他の人の生き方、様々なメディアからの影響等、そういった今の子どもたちもつ考える力を改めて認識できると思います。

併せて大事なものは、出てきた答

えを尊重することです。答えの無いことを考えるのですから、違う答えをもっているのであれば、「こういう答えもあるよ」と共有すると考え方の幅が広がります。共有していただく考え方の中に、「当たり前」は世界のどれかの仕事の上に成り立っているもので、そこに対する感謝というものを一つのキーワードとして入れていただけると学校給食センターとしては嬉しいのです。

答えの無いことは多くありますが、どこまで、どのように掘り下げるか、そういう生きる力を食卓の一角で確認できるといいですね。





勝瀬中

全力疾走でNEVER GIVE UP!

5月20日に実施された体育祭。1学年の「台風の日」では、棒を渡し終えた2人ががっちりと握手する姿が見られるなど、様々な場面で仲間との絆を深めていました。

長い夏休みを終え、元気いっぱいの子どもたちが学校に戻ってきました。校舎内には明るい声が響き、二期のスタートを迎えました。

今学期は、音楽会・合唱コンクールをはじめとする行事が盛りだくさんです。取り組み過程で子どもたちは、仲間とのコミュニケーションを図り、思考を凝らしながら、考えを深めていきます。まさに「主体的・対話的で深い学び」の学習そのものです。そのような活動の中から、それぞれの学校の特色も生まれます。

二期も子どもたちに寄り添い、可能性を最大限に伸ばすことができますように、教職員一同、支援していきます。ぜひ、子どもたちの活動の様子をご覧いただき、今後とも、ご支援とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



関沢小

関小鉄腕ダッシュ 大根の間引き

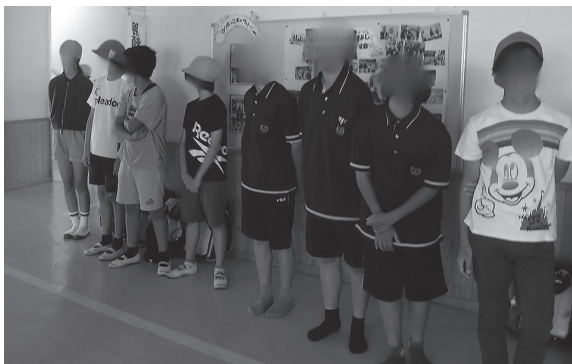
総合的な学習の時間で、5、6年生は福祉事業所の力を借りながら、大根や、自分で選んだ野菜を育てています。



進め! 次の50年へ

本校は今年で創立50周年を迎えます。生徒がデザインしたロゴマーク入りのオリジナルTシャツを作成しました。

東中



勝瀬小

小中連携のあいさつ運動

勝瀬中学校区の3校では、あいさつを通して自分も周りも大切にする豊かな心を育て、1ランクアップを目指した取組をしています。

セカンドブック事業について

富士見市立中央図書館 長谷川 実

現在富士見市の図書館では、十
二カ月検診の際に本のプレゼント
をする「ブックスタート事業」と
小学校の新生一年生に本をプレゼン
トする「セカンドブック事業」を
実施しています。セカンドブック
事業は、小学校に入学する児童に
図書館利用カードを作成し、全
ての一年生に本のプレゼントをする
事業です。

その始まりは、私が富士見市に
着任した平成二十五年からになり
ます。つるせ台小学校に併設され
た鶴瀬西分館に配属となり、当時
のつるせ台小学校の校長先生から
国語の研究授業があるので、在校
生に図書館のカードを作って利用
につなげたいというお話をいた
だきました。その後も校長先生と
お話をすることで、毎年新入生のカ
ードを作れば、つるせ台小学校全
員がカードを持つことになるとい
う提案をさせていただきました。そ



水谷東小

田んぼから始まる、楽しい学校

中庭で田植えの準備が始まりました。まずはしっかり土づくり。重たいシャベルをにぎって、田んぼづくりを楽しんでいます。



諏訪小

みんなで協力すわっこまつり

1年生から6年生まで、グループで役割分担してお店を開きました。どのお店もお客さんも笑顔いっぱいでした。



西中

いのちの授業+(プラス)

本校では助産師さんを講師に招き、全学年で、それぞれの発達に合った包括的性教育を行っています。



みずほ台小

ようこそ！みずほ台小学校へ

全校児童が初めて集まった「1年生を迎える会」1年生のかわいらしい姿に体育館全体が温かくなりました。

学 校



針ヶ谷小

安全に、自転車でGO！！

警察の方をお招きして、全学年で自転車の乗り方や交通ルールを学びました。

ルールを守って、安全に遊びにいこう！



して五年後から鶴瀬小学校にも広げ、令和二年度からは、市内全校に広げるとともに、本のプレゼントも開始しました。本のプレゼントについては、初めは図書館で決めた一冊を全児童に配布していましたが、令和四年度からは、四冊から選んでもらう方法を取りました。図書館利用および読書のきっかけとなる取組として今後も実施していきたいと思っています。

今年度は、市内の全小学生に電子図書館のIDとパスワードを付与しました。一人一台端末を活用し、場面にに応じて紙と電子の使い分けをしてもらえればと思います。複数人が同時アクセス可能となる読み放題パックを新しく購入しましたので、ぜひご利用ください。

教育委員会だより

令和3年4月以降に高校・大学等に修学されたお子様の保護者の方へ

＜教育資金利子補給制度のご案内＞

高校・大学等に修学するため、入学資金や在学資金など教育に要する資金を必要とされる方が、日本政策金融公庫の教育一般貸付（入学資金、在学資金）を受けた場合に、市がその返済利子の一部を助成します。

1 交付対象者

次の全てに該当する方

- ①高校、大学等へ修学する方またはその保護者であること
- ②富士見市に住民登録があり、現に居住していること
- ③市税を滞納していないこと
- ④日本政策金融公庫から教育資金の融資を受けていること

※利子補給制度の対象となる融資は、修学する学校ごとに1回のみです。

2 利子補給期間

在籍する高校、大学等の正規の修学期間。

3 利子補給金額

借入に係る利子の年額（上限1万7千円）を助成します。

※利子の年額は、年度単位で計算します。

4 その他

申請方法・申請時期等の詳細は、富士見市ホームページをご確認ください。



【利子補給に関する問合せ先】

富士見市教育委員会 教育政策課（富士見市立中央図書館2階）

電話 049-251-2711（内線612）

【教育一般貸付に関する申込み・問合せ先】

日本政策金融公庫

教育ローンコールセンター：0570-008656（ナビダイヤル）

03-5321-8656

＜近隣の店舗＞

日本政策金融公庫 川越支店

住所 川越市脇田本町14-1 日本生命川越ビル5階

電話 0570-017448（ナビダイヤル）

《お詫びと訂正》

・5月号(365号)「きんもくせい」編集委員の学校名に間違いがございました。
中村恵美先生は、(つるせ台小)ではなく、正しくは(西中)でした。
ここに訂正し、お詫び申し上げます。

中学二年から共に歩んできたこの学年も、いよいよ最上級生として最後の一年を迎えました。生徒たちにとって中学校生活の集大成となるこの一年が、将来振り返ったとき

輝く一年に



に「成長できたよい一年だった」と思えるよう、私は日々の授業や学校生活に全力で向き合っています。
行事や部活動の場面では、最上級生としての責任感と誇り

富士見市立勝瀬中学校

教諭

大野

航汰



りを胸に、堂々と輝く姿が見られます。クラスの合言葉は「Let's Go Passion」。その言葉通り、生徒たちは情熱をもって日々の学校生活に取り組んでいます。

の練習に力を尽くしたりと、最上級生らしい自覚ある行動が見られました。本番では、全力で競い合い、仲間と励まし合い、互いの頑張りを讃え合う、かけがえないひと

体育祭では、団をまとめるリーダーとして後輩を引っ張るだけでなく、「よい行事にしたい」という強い想いのもと、団長を中心に応援内容を一から考案したり、大縄跳び

きとなりました。
その姿に、私自身も大きな感動と刺激を受け、改めて教師としての使命と喜びを強く感じています。
この一年が、生徒たちにとってただの通過点ではなく、「自分の成長を実感できた」と胸を張って言える時間となるように。そして、自分の未来を切り開く力を育む土台となるように。私は責任と誇りをもって、生徒一人一人と真摯に向き合い、これからも支え続けていきます。

編集日記

原稿を起草している六月下旬。環境省の「熱中症予防情報報サイト」と毎日ならめつこし、ブル学習の可否を検討する日々が続いている。そして、九月号が発行される頃も情報との格闘が続いているのではないかと。そこで、環境省のホームページにまとめられていた、「暑さ指数の(WBGT)の歴史」について、記していく。
始まりは、一九五四年(昭和二十九年)アメリカ・サウスカロライナ州パリスアイランドの海兵隊新兵訓練所で、事前に熱中症のリスクを判断するために開発された。その地は、湿度が高いうえに、海兵隊の訓練は厳しく、熱中症になりやすかったことが暑さ指数の提案につながったとある。その後、一九八二年(昭和五十七年)国際標準化機構(ISO)が国際基準として位置付けた。
日本では、二〇二二年(令和三年)に「熱中症警戒アラート」、昨年に「熱中症特別警戒アラート」の運用を開始した。その間に、気候変動適応法も改正されている。
気候問題は世界レベルで取り組む課題だが、その中で安心安全に児童・生徒の学校生活を担保しているよう努めていきたい。

(関口循子)